

「きょうからイクメンジャー」連載コラム1

(次回は11/11の予定)



宇治木 敏子

▶ 1

「育メン」というフレ
ーズも定着し、父親の育
児参加が広がっていま
た「親子のタッチ・コミ

ユニケーションセミナー」では全親子がパパの参加でした。3年前は約3割だったので大きな前進。産婦人科での講座も3〜5割がパパ同伴で、積極的な姿に子どもの笑い声も響きます。

す。「どう接すればいいのか分からない」「積極的に子育てに関わるつもりだが、『泣かれても大丈夫』という自信が持てない」など。一方で、ママからは「機嫌のいい時だけ育メンで、泣いたらお手上げなんだから…」そんなつぶやきも聞こえてきます。

悩むパパ注目!

乳幼児とタッチで交流

うじき・としこ 58



年生まれ。子育て中の母親のストレス研究に

取り組み、03年にNP
O法人日本タッチ・コ
ミュニケーション協会
設立。産婦人科医院や
企業での研修講師を務
め、子どもの自己肯定
感を高める子育てを支
援。呉市在住。

にしもと・おさむ



64年呉市生まれ。東京や千葉でイラストレー

ターとして活動。知育雑誌のイラストや工作
付録の創作、子ども向
けのミュージアムづく
りに携わる。12年に家
族で帰郷。2児の父親。
廿日市市在住。

コミュニケーションが大
切。慣れない育児に戸惑
う場面は多くても、乳幼
児と交流するコミュニ
ケーションの方法を学
べば、子どもの気持ちを
くみ取った対応ができ
ます。子育て本来の楽
しみがさらに深まりま
す。

ただ、パパを対象にし
た育児アンケートから
は、悩む姿がうかがえま
す。そこで、「もう『育
メンもどき』とは呼ばせ
ない!」とのパパたちの
気持ちに伝えようと届け
るのが連載「きょうから
イクメンジャー」。言葉
で気持ちを伝えることが
できない赤ちゃんのメッ
セージをくみ取ったり伝
えたりできる、タッチの
ノウハウを、乳幼児を持
つパパ向けに紹介してい
きます。

(次回から、にしもと・
おさむさんがイラストを
担当します)